

about Tanseisha Group

【Interview】ディスプレイ・内装業のスペシャリストを輩出する人材派遣会社『丹青社ヒューマネット』

発想力と具現化力を含めた多彩なクリエイティブの力を大切に、こころを動かす「社会交流空間づくり」に挑み続ける「丹青社グループ」。『丹青ヒューマネット』は、空間づくり事業を中心に活躍する人材の派遣・紹介サービスを手がけています。働き方改革の推進が叫ばれるなか、ディスプレイ業に携わる人材をどのように輩出しているのか、丹青ヒューマネット代表取締役社長 石畑和恵のインタビューから紐解きます。



Tansei Humanet

大型商業施設や専門店などの空間づくりを行っている丹青社グループの子会社として2004年に設立。「働く人を幸せにし、働きがいをデザインする会社」を掲げ、主として施工管理やデザイナーの人材派遣や人材紹介を行う。

石畑 和恵 (いしはた かずえ)

株式会社丹青ヒューマネット 代表取締役社長

鹿児島県出身。1991年株式会社丹青社入社。制作職として経験と実績を積む。丹青社で初の産休・育休取得後、企画職で復帰。2005年に、現在(2023年)も続く丹青社のオリジナル実践型新入社員研修「人づくりプロジェクト」の立ち上げ等を経て、2019年株式会社丹青ヒューマネット取締役に就任。2020年2月より現職。



1 ディスプレイ業で「人材」を派遣する大切さとは。

調査・企画からデザイン・設計、制作・施工、運営やメンテナンスまで、『人』が支える役割が非常に大きいのがディスプレイ業の特徴です。丹青ヒューマネットには、20代から70代まで幅広い年代の方が在籍しており、施工管理技士をはじめとした制作職、空間デザイナー、事務職等多彩な業種のスペシャリストとして、丹青社グループ各社や、ディスプレイ業各社、協力会社等に派遣しています。最近では、3DCADのスキルを持ち即戦力で活躍しているデザイナーや、地方に移住してデザイナーと地域創生の支援を両立している方など、それぞれのライフスタイルに合わせて従事する方も多く見受けられます。派遣社員の働く場、働き方はさまざまですが、トップクリエイターと協働して業務を推進し、企画力、デザイン力、ディレクション力、プロデュース力など個々の力を合わせてひとつの「空間」を完成させる喜びを多くの関係者と分かち合える「空間づくり」に携わることは、個人のキャリア形成において大きな経験・財産になると考えています。

私自身のキャリアのスタートが制作職だったこともあり、当社から現場の管理者として数多く派遣している制作職ならではのやりがいや苦労は理解しているつもりです。制作職は施設のオープン日が決まっているなか、多くの職人さん方と協力しながらひとつの空間をつくりあげます。現場に携わる皆さんにとって安全・安心な環境を整え、コミュニケーションを大切にしながら作業等の調整・指示を行う当社社員の存在は欠かせません。現場の環境づくりは担当する制作職の皆さんが進めてくれていますので、従事する制作職の働きやすさを向上させるのは私たちの役目です。また、当社から派遣しているデザイナーは幅広いプロジェクトに携わっていますが、もとを辿れば手書きで図面を起こす時代から2D・3Dへと、環境やソフトの急激な変化に都度対応し、さらに培ってきた技術やノウハウを発揮し、それぞれの場所で活躍しています。そんな派遣スタッフたちの声を直接聞きながら、資格取得の支援や教育機会の創出など、各自のキャリアアップにつながるような施策を進めています。

よりよい空間をつくりあげる「人」こそが財産という業界で、組織系企業からアトリエ系企業までそれぞれの企業・組織が求めている「人」を知り、ひとりひとりが望む働き方に合わせた働く場と「人」をつなぐこと、さらに各々が「空間づくりのプロフェッショナル」として、より長く勤めあげられるような制度づくりも、ディスプレイ業界の人材派遣会社の大きな役割のひとつだと考えてます。



施工を専門に手がける(株)丹青TDCとともに実施した『墨だし研修』のようす。グループ会社で連携しながら「人材」の育成を進める

2 “業界”を伝える新たな取り組み。～施工現場と中継を結ぶ出前授業～

どの業界においても人材不足が叫ばれて久しいですが、ディスプレイ業界も人手が足りていないのが現状です。認知度が低い業界ですので、まずはより多くの方にこの業界と働き方についての理解を促し、空間づくりに携わる人を増やすことが急務です。丹青ヒューマネットは、建築やデザインを学んでいる学生の1人でも多くに、空間づくりのおもしろさを伝え、一緒に空間づくりを行う仲間を募るため、短・中・長期的な効果を狙った以下のようなさまざまな発信を強化しています。

- (1)コラムの制作 —若年層向け「10代のみんなへ伝えたい、空間づくりの仕事」
—制作職向け「安全衛生管理のための13のヒント」
- (2)インターンシップの受け入れ
- (3)専門学校でのワークショップ —モノづくりの大切さと楽しさを伝える
—現場への理解を深める

業界そして現場の特性上、実際に働く姿を外に見せるのは難しいところですが、2023年には初めて、事業者様にご協力いただき、実際の施工現場をオンラインで生中継しながら制作職と学生が直接コミュニケーションをとる『ハイブリッド出前授業』を実施しました。参加した学生からは「空間づくりに興味をもった」「施工管理職の役割がわかり、魅力を感じた」といった感想が届いており、学校側からも「リアリティのあるプログラムで、学生の仕事への理解が進んだ」といった声がありました。また、東京で開催したインターンシップには福岡や関西といった遠方からの参加もあり、外からではわかりづらい業界だからこそ、より多くの機会を設けて「積極的に伝える」こと、そしてそれを継続し『ディスプレイ業界で働く』という選択肢を増やすことの大切さを実感しています。



学校側の意見も取り入れながら出前授業を企画

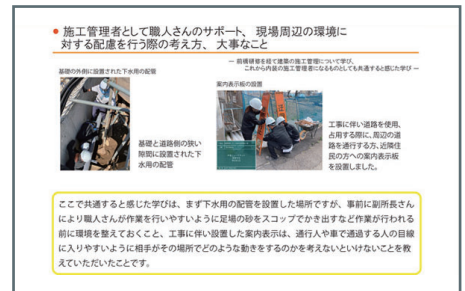


普段見られない施工現場と学校を中継でつなぐ

3 「人が育つ会社」をつくるために。

丹青ヒューマネットの新入社員や若手社員は、配属先の企業の一員として業務にあたりますが、オープン日に合わせて、ひとつとして同じものがない「空間」をつくるため、『予定調和でない、待たなしの現場』で、数々の課題を乗り越えていく必要があります。そこで親会社である丹青社の社員の皆さんと一緒に、人を育てるための協力体制を整えています。今から20年ほど前に私も立ち上げに参画した丹青社のオリジナル実践型新入社員研修「人づくりプロジェクト」は現在もかたちを変えながら継続されています。その中心プログラムである「プロダクト制作」は、新入社員同士がチームワークを図りながら、ステークホルダーとの合意形成や関係構築、品質・コスト・納期の管理などを通して、実務に近い困難を体験し「仕事の作法」を学びます。

それをヒントに2023年に初めて丹青ヒューマネットで企画したのが、群馬県前橋市での研修です。ステークホルダーとして群馬県前橋市のまちづくりに携わっているゼネコン2社と前橋市にご協力いただき、3週間にわたって新入社員向けの研修を行いました。2つのチームを編成し、現場見学、施工管理の方々との対話、与えられた役割からミッションを完遂するなど、実地も織り交ぜながら、仕事に取り組む姿勢をはじめ、多くの人と関わりながら業務を遂行するという社会人として大切なことを学ぶ貴重な機会となりました。



研修の最後には、学びを発表しながら振り返りを行った

4 「人」で空間づくりに貢献する。

私たち丹青ヒューマネットは「人」で空間づくりに貢献することが最大のミッションです。テクノロジーの進化に伴い、空間づくりにおいてもテクノロジーの力で業務改善を進め、また新たな技術を活用して表現の幅を広げています。一方で、人がもつアイデアとテクノロジーを掛けあわせる重要性はより高まっており、ひとつとして同じ空間がないというディスプレイ業に携わる「人材」の価値の大きさが揺らぐことはないと思っています。

私は丹青社で産休・育休を取得した初の女性社員として当時社内外のたくさんの方の理解・協力を得ることで実現し、それが私のキャリア形成の大きな転機となったことから、ディスプレイ業界でひとりひとりが働きがいをもって仕事に向かえるよう、環境を整えることが今後ますます大切だと強く感じています。働く場として選ばれる会社・業界になるために、そして世によりよい空間を拡げていくために、丹青ヒューマネットは、これからも多くの人の声を聞きながら新たな施策に取り組み、人づくり、仕事づくりを通じて、人の成長が私たちの喜びとなるような企業でありたいです。



丹青社CMIセンターが開発した「VRセレモニー」の販売も丹青ヒューマネットが新たに手がけている。本事業を通じてシステムを理解し、今後増加が予想されるバーチャル空間関連の人材紹介依頼に備える



TOPICS

直近で下記ニュースリリースを配信しました

こちらから詳細を
ご覧いただけます

■ 2023.11.13 配信

丹青社、若手社員による空間×テクノロジーの研究成果発表イベント『超文化祭2023』を開催 ～デジタル×アイデアで空間の可能性を拡張する“自主実践プロジェクト”第2弾～

丹青社は、デジタルとアイデアで空間の可能性を広げる若手社員主体の“自主実践プロジェクト”における研究活動成果発表イベント『超文化祭2023』を、丹青社の本社内『クリエイティブミーツ』および本社近郊の『港南ラボ マークスリー[Mk_3]』にて、2023年12月13日(水)から15日(金)の3日間にわたり初開催します。

丹青社の“自主実践プロジェクト”は、空間体験の価値を最大化・最適化する専門チーム CMIセンター(クロスメディアイノベーションセンター)の若手社員を中心に、外部パートナーと協業し、マーケットに新たな「体験価値」を創造する取り組みです。今回は、幅広い分野の機器やシステムにアイデアをかけあわせ、デジタルで拡張させる研究活動をかたちにしたさまざまなソリューションを一堂に集め、皆さまに体験いただく場として『超文化祭2023』を企画しました。



■ 2023.11.16 配信

アート・工芸作品のプラットフォーム「B-OWND」、 米・マイアミで開催の「SCOPE MIAMI BEACH2023」に初出展 ～世界屈指の国際アートフェア出展により、新たな日本文化体験を提供～

丹青社がサービスを提供するアート・工芸作品のプラットフォーム「B-OWND(ビーオウンド)」は、12月5日(火)よりアメリカ・マイアミにて開催される「SCOPE MIAMI BEACH 2023」に初出展します。

「SCOPE MIAMI BEACH 2023」は、マイアミビーチ上に設けられた巨大な会場内に130以上の国際的なアートギャラリーが出展する、世界屈指の国際アートフェアです。

ブースでは、B-OWNDがプロデュースする陶芸家・古賀崇洋氏の作品約120点を展示・販売します。本展示会のために制作された1mを超える大きさの「NEO MANEKINEKO」をはじめとし、古賀崇洋氏の代表的なシリーズを多数ご覧いただけます。また、エントランスパフォーマンスとして、箏×EDMのパフォーマンス集団・TRIECHOES(トライエコーズ)によるライブパフォーマンスや、2023年に業務提携を締結した茶のスタートアップ・TeaRoomによる古賀崇洋氏の茶器を用いたアート茶会をプロデュースします。これにより、視覚・聴覚・味覚から総合的にアプローチする、新たな日本文化体験を提供します。



■ 丹青社について

「こころを動かす空間創造のプロフェッショナル」として、店舗などの商業空間、博物館などの文化空間、展示会などのイベント空間等、人が行き交うさまざまな社会交流空間づくりの課題解決をおこなっています。調査・企画から、デザイン・設計、制作・施工、デジタル技術を活かした空間演出や運営まで、空間づくりのプロセスを一貫してサポートしています。

社名 : 株式会社丹青社

所在地 : 東京都港区港南1-2-70 品川シーズンテラス19F 〒108-8220(本社)

創業 : 1946年10月

資本金 : 40億2,675万657円(2023年1月31日現在)

上場 : 東京証券取引所プライム市場(証券コード:9743/業種名:サービス業)

URL : <https://www.tanseisha.co.jp>

本ニュースレターに関するお問い合わせ・取材のご依頼

株式会社丹青社 広報室 担当:石綿、寺戸

Mail: pr-staff@tanseisha.co.jp Tel: 03-6455-8115

お問い合わせフォーム:<https://www.tanseisha.co.jp/contact/pr>